

FY 2018

2019年3月期決算第2四半期 決算説明資料

2018年11月14日

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 宮内 直孝

JSW

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

19. 3期より、主要製品別業績の開示区分変更を実施したため、注意書きが無い場合、前期実績を変更後の区分で再集計しており、過去の決算説明会資料と集計値が異なります。

また、注意書きが無い場合、「当初予想」は2018年5月18日に開示した数値です。

03 事業部門の構成と製品

PART I

業績と計画 <2019年3月期第2四半期業績と通期計画>

05 2019年3月期第2四半期：連結実績

06 営業利益増減実績

07 セグメント別 受注高・売上高・営業利益の状況

08 産業機械事業

09 素形材・エネルギー事業

10 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、
財務体質、研究開発費の状況

11 2019年3月期：通期計画

12 営業利益増減予想

13 セグメント別 受注高・売上高・営業利益の計画

14 産業機械事業 業績予想

15 素形材・エネルギー事業 業績予想

16 受注残高の推移と予想

26 ③フィルム・シート製造装置

27 ④射出成形機

28 アフターサービスの強化

－IoT/AIを活用した顧客サービスの強化－

29 －サービス網の拡充－

30、31：

新事業探索、育成の活性化 －新事業推進本部の活動状況－

32 プラスチック加工機械 －未来への挑戦－

参考資料(36～39)：

主要製品別業績の開示区分変更

売上高・営業利益・純利益の推移

主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移

日本製鋼所企業行動基準(2018年4月1日 改正)

PART II

中期経営計画「JGP2020」 <進捗状況>

18 2030年のありたい姿とJGP2020の基本的考え方

19 JGP2020数値目標

20 JGP2020 3つの基本方針(重点課題)

21、22：

経営資源の最適化とアライアンスの強化

①素形材・エネルギー事業

23 プラスチック加工機械の事業規模拡大

24 各製品群の事業規模と成長性

25 ②広島製作所能力増強

事業セグメント	素形材・エネルギー事業		産業機械事業		その他事業				
製品事業部	鉄鋼事業部		機械事業部、成形機事業部、FPD事業部、特機本部						
生産拠点	<p style="text-align: center;">室蘭製作所</p> 		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>広島製作所</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>横浜製作所</p>  </div> </div>						
製品	<p>[鑄鍛鋼製品]</p> <p>○電力・原子力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反応容器部材（シェル、ヘッド他） ・蒸気発生器部材 ・ローター軸 ・車室 ・その他発電用部材  <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油精製用反応容器 ・金型用鋼 ・製鉄用鉄鋼ロール ・各種サービス ・その他鍛鋼品各種 <p>[クラッド製品]</p> <p>○クラッド鋼板・鋼管</p> 		<p>[プラスチック加工機械]</p> <p>○樹脂製造・加工機械</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造粒機 ・フィルム・シート製造装置 ・二軸混練押出機（TEX・TEK） ・各種サービス  <p>[産業機械]</p> <p>○FPD装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レーザーニール（ELA）装置 ・各種サービス  <p>○成形機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック射出成形機 ・中空成形機 ・マグネシウム合金射出成形機 ・各種サービス  <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防衛関連機器 ・圧縮機 ・鉄道製品 ・その他産業機械各種 		<p>[新事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空機 ・水素 ・結晶 ・成膜 ・機能材 <p>○風力発電機</p>				
市場	電力・鉄鋼	石油・天然ガス	自然エネルギー	石油化学	産業機械	自動車	IT	防衛	新事業



業績と計画

2019年3月期第2四半期業績と通期計画

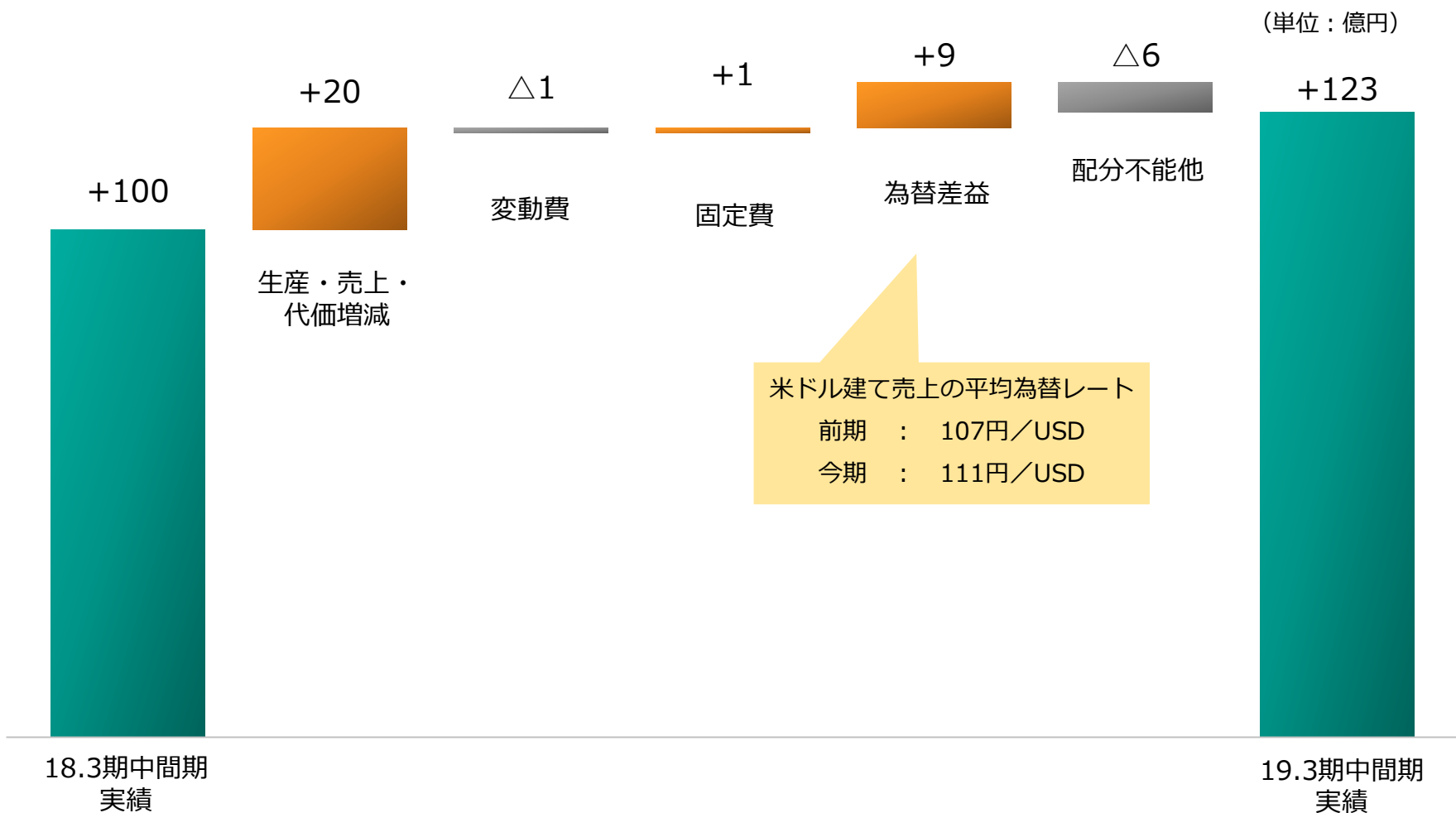


前年同期比で受注高は上振れ、売上高増により増益に。

(単位：億円)

	18.3期 中間期実績 (A)	19.3期			前期比 (D) - (A)	前回 予想比 (D) - (B)
		当初予想 (B)	1Q後 修正予想 (C)	中間期実績 (D)		
受注高	1,146	1,100	—	1,237	91	137
売上高	1,044	1,100	1,130	1,096	52	△4
営業利益 (率)	100 9.6%	100 9.1%	110 9.7%	123 11.2%	23 1.6%	23 2.1%
経常利益	103	100	110	136	33	36
純利益	75	80	100	119	44	39
1株当たり 純利益 (円)	103.32	108.86	136.07	162.52	59.2	53.66
1株当たり 配当金 (円)	17.5	25	—	25	7.5	0

生産・売上増や為替差益により前年同期比23%増益。



産業機械事業は受注好調、素形材・エネルギー事業は増収増益。

産業機械事業

(単位：億円)

	18.3期 中間期実績 (A)	19.3期		前期比 (C) - (A)	通期予想 進捗率 (C) ÷ (B)
		通期当初予想 (B)	中間期実績 (C)		
受注高	882	1,800	1,037	155	58%
売上高	843	1,700	849	6	50%
営業利益 (率)	110 13.0%	235 13.8%	115 13.5%	5 0.5%	49%

素形材・エネルギー事業

	18.3期 中間期実績 (D)	19.3期		前期比 (F) - (D)	通期予想 進捗率 (F) ÷ (E)
		通期当初予想 (E)	中間期実績 (F)		
受注高	227	450	165	△62	37%
売上高	175	450	221	46	49%
営業利益 (率)	△3 △1.7%	5 1.1%	18 8.1%	21 9.8%	360%

樹脂製造・加工機械、成形機は引き続き受注好調、その他は前倒しによる増注。

売上高・営業利益

受注高

(単位：億円)

	18.3期 中間期 実績 (A)	19.3期		前期比 (C) - (A)	通期予想 進捗率 (C) ÷ (B)	18.3期 中間期 実績 (D)	19.3期		前期比 (F) - (D)	通期予想 進捗率 (F) ÷ (E)
		通期 当初予想 (B)	中間期 実績 (C)				通期 当初予想 (E)	中間期 実績 (F)		
樹脂製造・ 加工機械	261	610	244	△17	40%	286	670	338	52	50%
成形機（連結）	308	650	345	37	53%	343	670	403	60	60%
FPD装置 （連結）	76	150	85	9	57%	95	170	61	△34	36%
その他	151	180	119	△32	66%	99	180	201	102	112%
連結会社他	47	110	56	9	51%	59	110	34	△25	31%
合計	843	1,700	849	6	50%	882	1,800	1,037	155	58%
営業利益	110	235	115	5	49%					

売上高はクラッド鋼管の下期からの前倒しにより増収、受注高は全体に減少。

売上高・営業利益

	18.3期 中間期 実績 (A)	19.3期		前期比 (C) - (A)	通期予想 進捗率 (C) ÷ (B)
		通期 当初予想 (B)	中間期 実績 (C)		
電力・原子力	86	160	66	△20	41%
クラッド鋼板・ 鋼管	41	130	90	49	69%
その他	22	100	38	16	38%
連結会社他	26	60	27	1	45%
合計	175	450	221	46	49%
営業利益	△3	5	18	21	360%

受注高

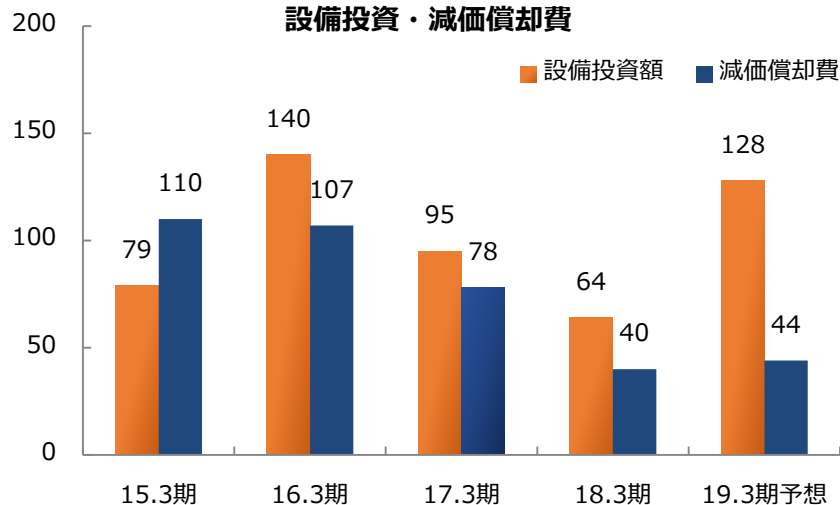
(単位：億円)

	18.3期 中間期 実績 (D)	19.3期		前期比 (F) - (D)	通期予想 進捗率 (F) ÷ (E)
		通期 当初予想 (E)	中間期 実績 (F)		
	65	150	28	△37	19%
	97	150	73	△24	49%
	39	90	37	△2	41%
	26	60	27	1	45%
合計	227	450	165	△62	37%

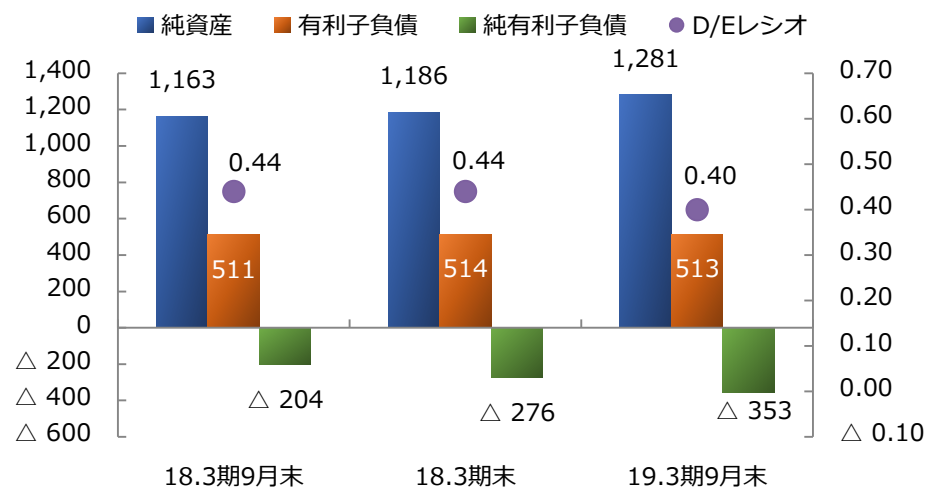
2019年3月期第2四半期：設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

(単位：億円)

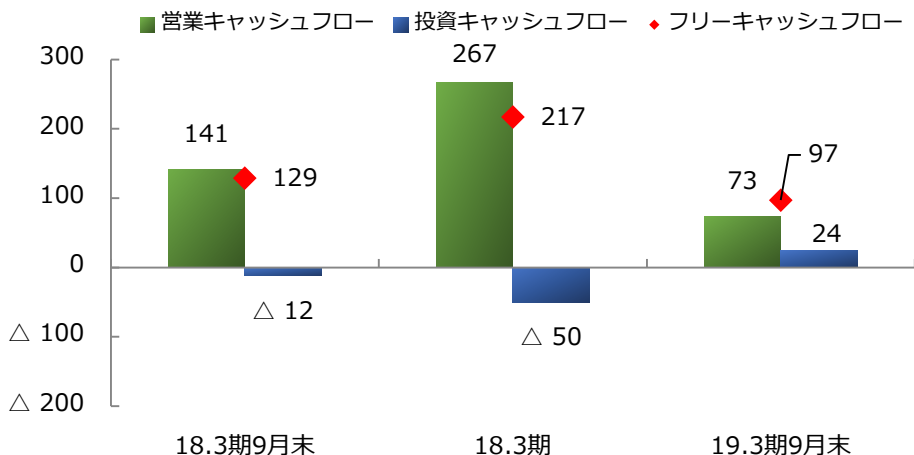
設備投資・減価償却費



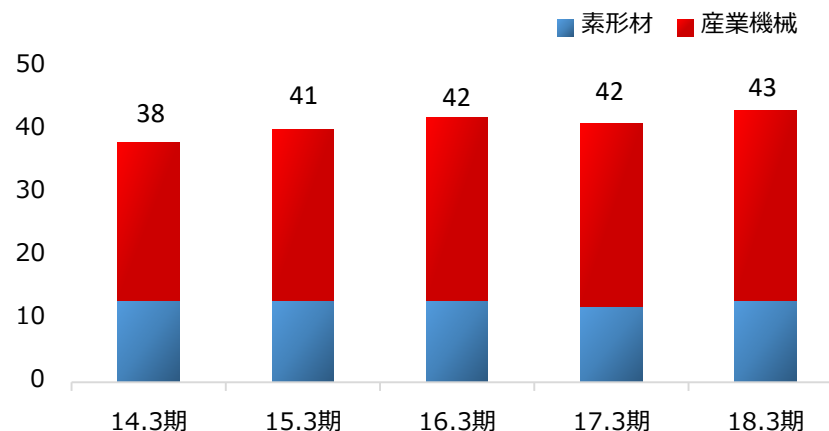
財務体質の状況



キャッシュ・フローの状況



研究開発費の状況



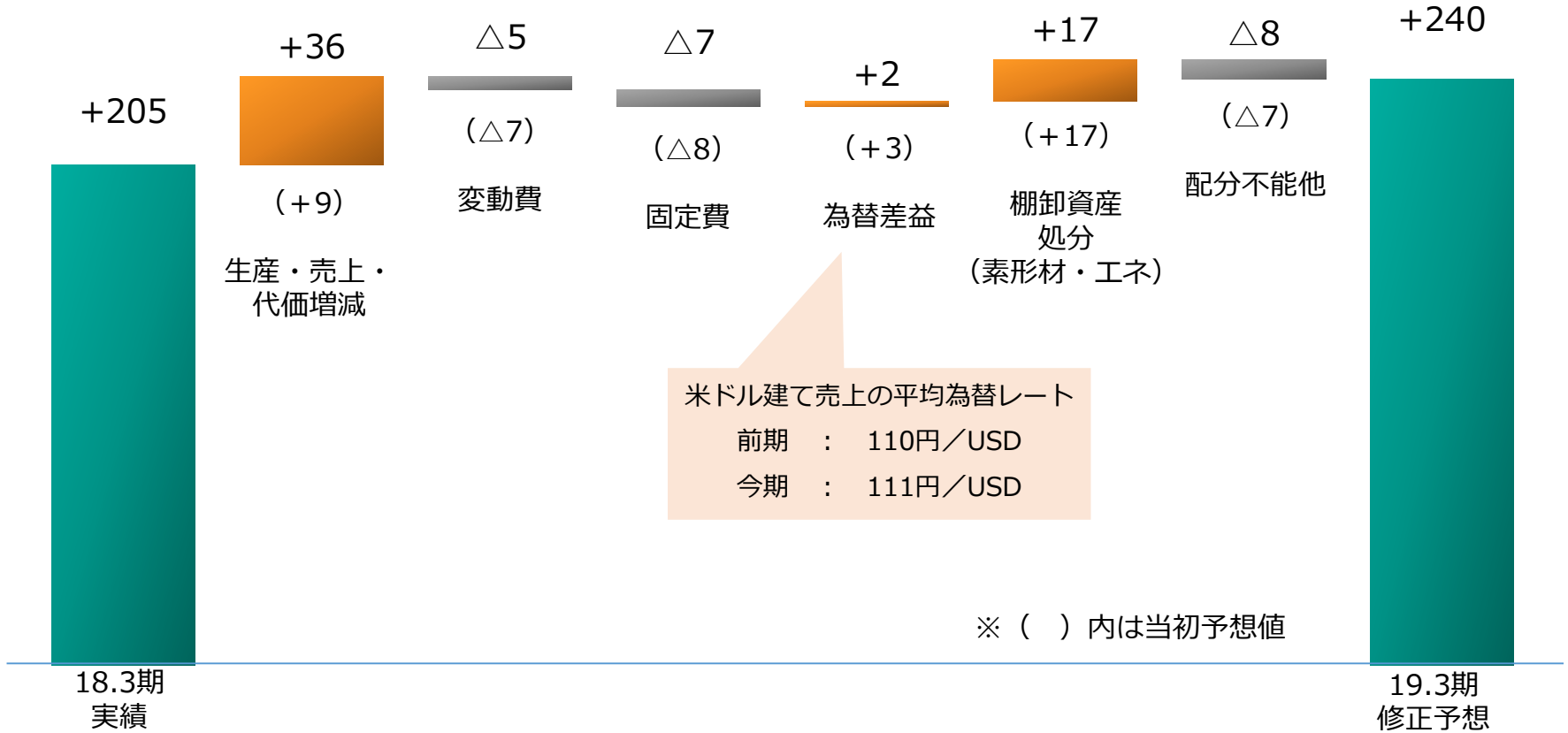
受注高、売上高、営業利益とも前年並みの高水準を予想。

(単位：億円)

	18.3期 実績 (A)	19.3期 修正予想			前期比 (B) - (A)
		上期	下期	通期 (B)	
受注高	2,350	1,237	1,063	2,300	△50
売上高	2,117	1,096	1,174	2,270	153
営業利益 (率)	205 9.7%	123 11.2%	117 10.0%	240 10.6%	35 0.9%
経常利益	221	136	114	250	29
純利益	107	119	81	200	93
1株当たり 純利益 (円)	145.77	162.52	109.63	272.15	126.38
1株当たり 配当金 (円)	37.5	25	25	50	12.5

生産・売上増により前年比17%増益を計画。

(単位：億円)



産業機械は引き続き高水準で利益を牽引、素形材は黒字化へ。

産業機械事業

(単位:億円)

	18.3期 実績 (A)	19.3期 修正予想 (B)	前期比 (B) - (A)
受注高	1,855	1,800	△55
売上高	1,689	1,770	81
営業利益 (率)	237 14.0%	242 13.7%	5 △0.3%

素形材・エネルギー事業

	18.3期 実績 (A)	19.3期 修正予想 (B)	前期比 (B) - (A)
受注高	430	450	20
売上高	363	450	87
営業利益 (率)	△9 -2.5%	22 4.9%	31 7.4%

防衛関連機器の売上高減を樹脂製造・加工機械でカバー。

売上高・営業利益

受注高

(単位:億円)

	売上高・営業利益			受注高		
	18.3期 実績 (A)	19.3期 修正予想 (B)	前期比 (B) - (A)	18.3期 実績 (C)	19.3期 修正予想 (D)	前期比 (D) - (C)
樹脂製造・ 加工機械	502	630	128	638	630	△8
成形機 (連結)	645	690	45	724	710	△14
FPD装置 (連結)	151	150	△1	142	140	△2
その他	284	190	△94	229	210	△19
連結会社他	107	110	3	122	110	△12
合計	1,689	1,770	81	1,855	1,800	△55
営業利益	237	242	5			

クラッド鋼管の売上高増などにより、前期比で増収増益を計画。

売上高・営業利益

受注高

(単位：億円)

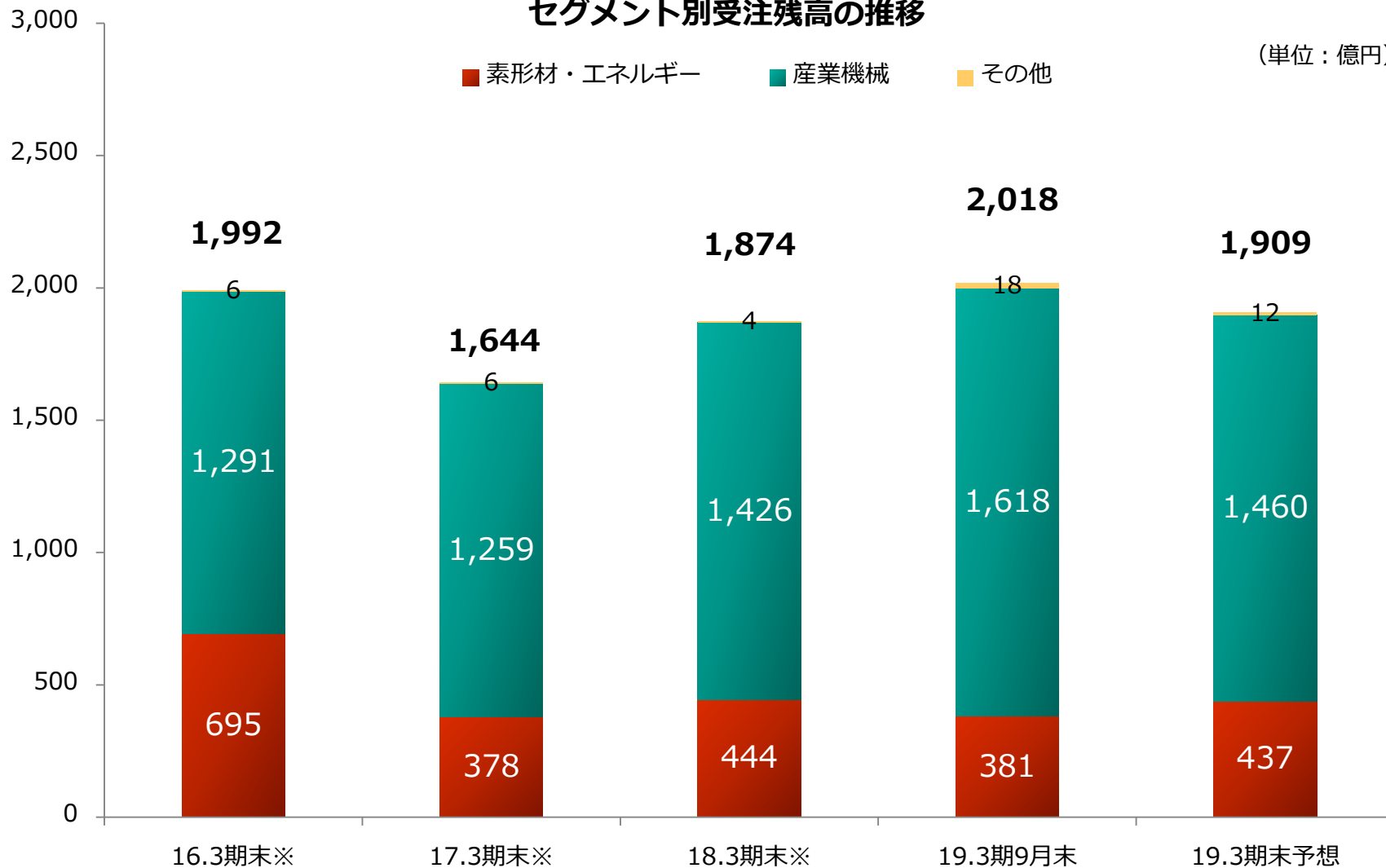
	売上高・営業利益			受注高		
	18.3期 実績 (A)	19.3期 修正予想 (B)	前期比 (B) - (A)	18.3期 実績 (C)	19.3期 予想※ (D)	前期比 (D) - (C)
電力・原子力	172	140	△32	130	150	20
クラッド鋼板・ 鋼管	70	150	80	139	150	11
その他	62	100	38	103	90	△13
連結会社他	59	60	1	58	60	2
合計	363	450	87	430	450	20
営業利益	△9	22	31			

※受注予想は期初から
修正なし

セグメント別受注残高の推移

■ 素形材・エネルギー ■ 産業機械 ■ その他

(単位：億円)



※18.3期末以前はセグメント変更前の数値
その他に不動産を含む



中期経営計画「JGP2020」

進捗状況



JGP2020

新たな成長基盤の整備

FY2030

「次の10年」でJSWグループの確実な成長を実現させるための基盤整備

- 産業機械セグメント
- 素形材・エネルギーセグメント

～JGP2017

JGP2020

現有事業拡大

生産体制
再構築の推進

『攻めの経営』
事業領域拡大のための
種蒔きと育成

現状規模で安定黒字化
成長機会の発掘と育成

事業規模の拡大伸長

新事業育成

既存事業の堅持

安定した
事業ポートフォリオへ

新事業、M&A

(単位：億円)

全社



	FY2017	JGP2020
連結売上高	2,129	2,600以上
連結営業利益	213	300以上
売上高営業利益率	10.0%	11.5%以上
ROA	3.7%	7%以上
ROE	9.6%	14%以上

産業機械事業

	FY2017	JGP2020
連結売上高	1,702	2,050以上
営業利益	238	280以上
売上高営業利益率	13.9%	13.6%以上

素形材・エネルギー事業

	FY2017	JGP2020
連結売上高	408	450以上
営業利益	△15	30以上
売上高営業利益率	-3.7%	6.6%以上

JGP2020 ~2030年を見据えた基盤作り~

◆産業機械で「成長」、素形材・エネルギーは「新生」

①経営資源の最適化とアライアンスの強化

経営資源再配分による適正化 ⇒ 産業機械事業へ積極投資、素形材は売上規模に合ったコスト構造へ
アライアンス、M&Aの推進による事業規模拡大 ⇒ 自前主義からの脱却

②アフターサービス(ストック型ビジネス)の強化

産業機械事業を中心にサービス体制の基盤強化 ⇒ 安定収益の確保、顧客満足度向上
サービス事業を通じた強固な顧客基盤の構築 ⇒ 次の事業への礎作り

③新事業探索、育成の活性化

メガトレンドを見据えた新事業探索
航空機、水素、結晶、成膜 4分野+ α の育成と事業化推進

トピックス

●素形材・エネルギー事業の再構築

主要施策

●新会社設立及び関連会社統合の検討を開始

【検討の目的】

- ・事業規模に合った体制への再編と、収益改善改革の加速により安定した黒字体質を構築。

⇒ 2019年10月設立に向けて進行中。

●月島機械との製造分野の協業

- ・鉄構機器製造の協業。2019年4月の操業開始に向け計画通り進行中。

●クラッド鋼板・鋼管の競争力強化

- ・設備合理化・統廃合によるコスト競争力の強化

⇒ 生産コスト改善と生産性向上により、収益力の改善を図る。

事業ポートフォリオ
の再構築による
収益基盤の強化



素形材・エネルギー
事業の「新生」へ

トピックス

●クラッド鋼板・鋼管の競争力強化 –コスト改善投資計画–

<今後の市場動向、見通し>

▶鋼板 主用途：6割が石油・ガス関連の各種機器用部材

▶鋼管 主用途：石油・ガス田からの耐食性輸送管

・エネルギー（LNG）需要は人口増加に伴い拡大。

⇒ LNG生産能力は2020年以降不足。特にアジア、中東中心に開発が進む予想。

2018～2021年に
設備投資を順次推進
(圧延工場中心)



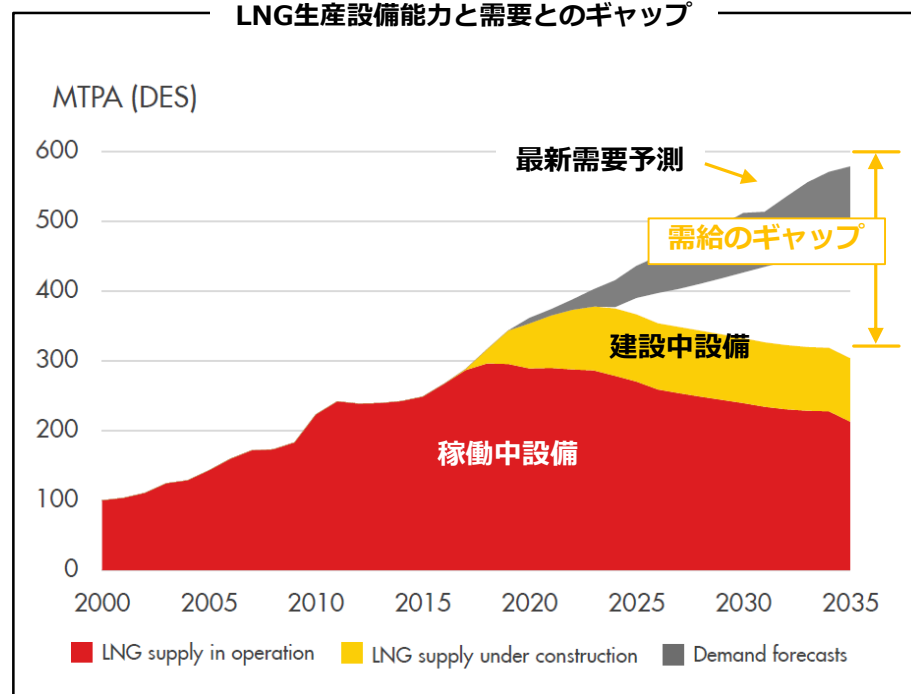
改善計画

30%の生産性向上

20%以上の生産コスト削減

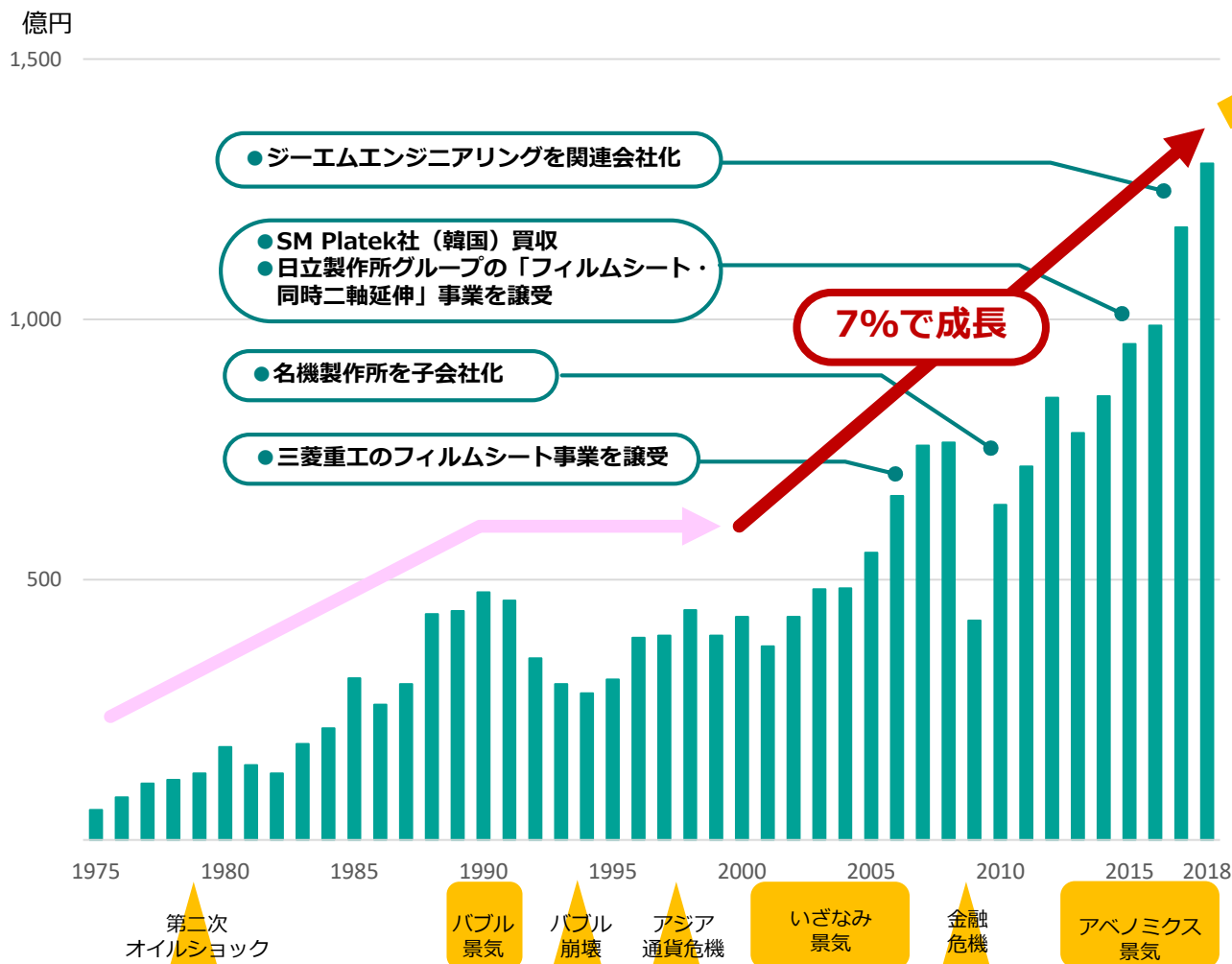
→負荷変動に強い操業体制へ

LNG生産設備能力と需要とのギャップ



Source: Shell interpretation of IHS Markit, Wood Mackenzie, FGE, BNEF and Poten & Partners Q4 2017 data

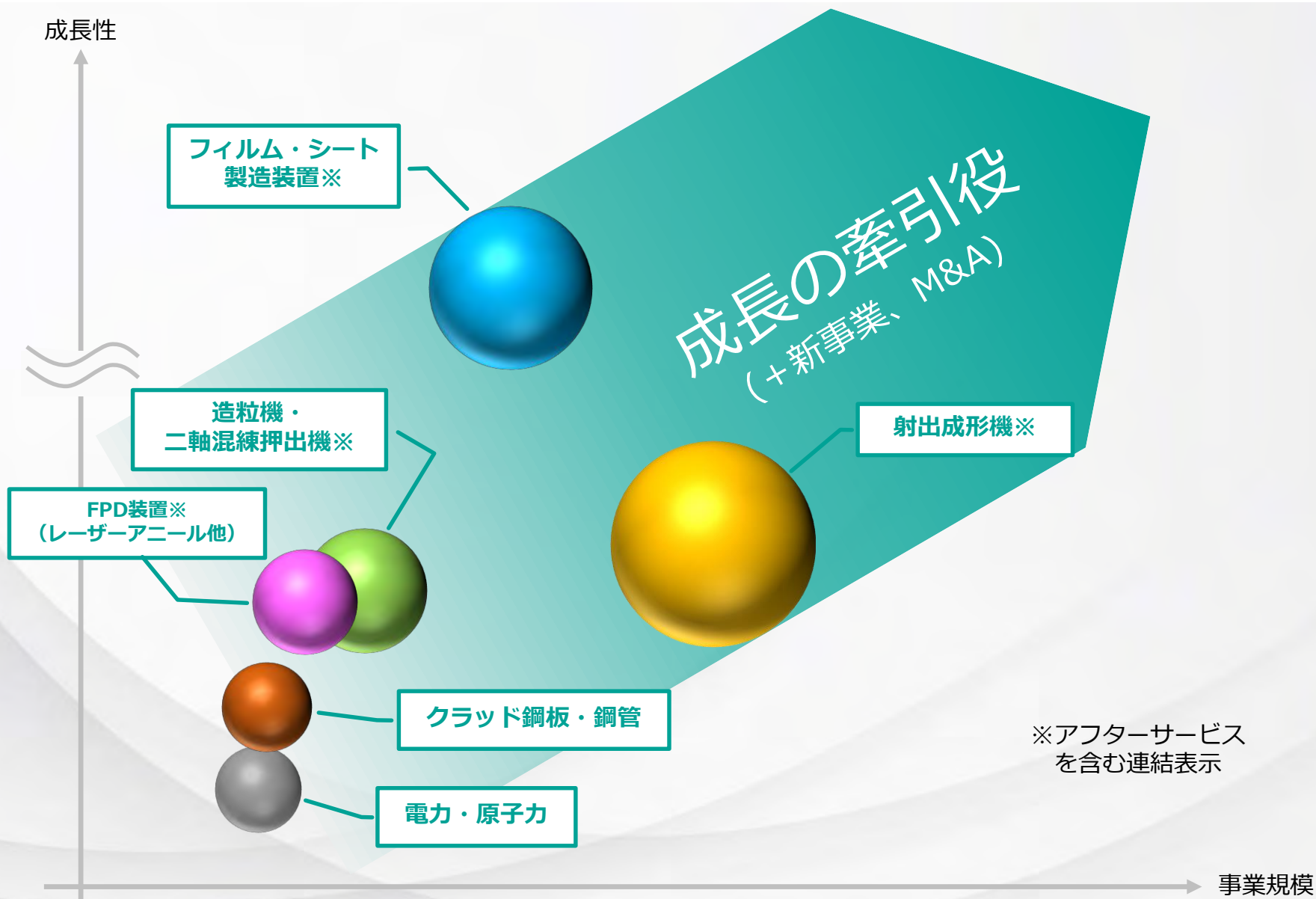
- 世界のプラスチック市場全般は、GDP同様 2~3%/年で成長する予想。
- 当社プラスチック関連事業は、2000年度対比約3倍の規模に成長。



更なる
成長を目指す

- 高い成長が期待される分野、新しく創出される分野をいち早くターゲットにした販売戦略
- アフターサービス強化
- 積極的なM&A、アライアンス

各製品群の事業規模と成長性



トピックス

- 第6&第7組立工場、射出機サービス部品センター、複合型厚生棟の稼働
(2018年10月竣工)

旺盛な産業機械需要
に対応する
増産体制の確立

- 各種産業機械の生産
- 射出成形機サービス事業の拡大

広島製作所の
生産能力

15%以上向上
2018年11月～
随時操業開始



トピックス

- リチウムイオン電池向けセパレータフィルムの需要動向、見通し(中国、その他)

セパレータ市場は、中国での鈍化はあるものの、年率30%以上で拡大すると予測

LiB向けセパレータ世界市場規模



出典: 株式会社 横矢野経済研究所「2018年版リチウムイオン電池部材市場の現状と将来展望～セパレーター編」

◆中国マーケット ☂

- * 2016～2017年、設備が一斉に立ち上がったことで、セパレータフィルムの供給過剰が続く
- * しばらくは業界再編が続く (乱立するメーカーの淘汰)
- * 市場の回復は、2019～2020年頃

需要増に備え、

- 増産対応設備は計画通り実施
- 新技術開発を強化し、より競争力のある製品を創出

◆中国以外 (日本・韓国・欧州) マーケット ☀

- * 2020年以降のEV車本格普及に向け、大規模な投資を計画、実施

「マス・カスタマイゼーション戦略に基づいたソリューション製品」

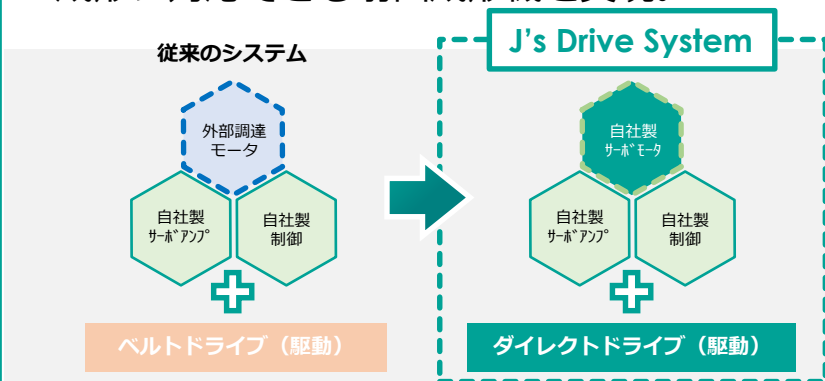
トピックス

- J's Drive System™ 搭載機の販売開始
- マグネシウム合金射出成形機：型締力1,300トン大型機の開発

● J's Drive System™

高性能サーボモータの自社開発に成功

両立が困難だった高速かつ高負荷対応の射出を1台で可能（EHD仕様）にし、幅広い多品種成形に対応できる射出成形機を実現。



開発したサーボモータ

● マグネシウム合金射出成形機

自動車軽量化を背景に、金属部品の代替材として用途・需要拡大を期待。

現行280～850トン→1,300トンを開発
(2019年1月～)

- ▶ インパネ向け、各種金属部品等
大型部品への要望に対応
- ▶ 将来は2,000～3,000トンも視野に

⇒自動車産業へ本格参入へ



850トン マグネシウム合金射出成形機
<JLM850MG2e>

JSW IoTソリューション

～例：成形工場のスマートファクトリー化～

【NET100】
生産管理・分析
稼働状況の管理&監視



【Production Manager】
成形工程情報の管理
管理帳票作成の自動化

【成形条件支援ソフト】
成形段取・初期成形
条件の算出、成形不良
対策をガイダンス
<SYSCOM5000i標準搭載>



【AI Molding Navigator】
成形不良を未然に防止



【Remote Maintenance】
ダウンタイム削減
保守費用の削減

【ボールネジの予知保全】
ショット数と負荷状況から
点検時期をお知らせ
<SYSCOM5000i標準搭載>



【Predictive Maintenance】
ボールネジの寿命を予知
ダウンタイム削減

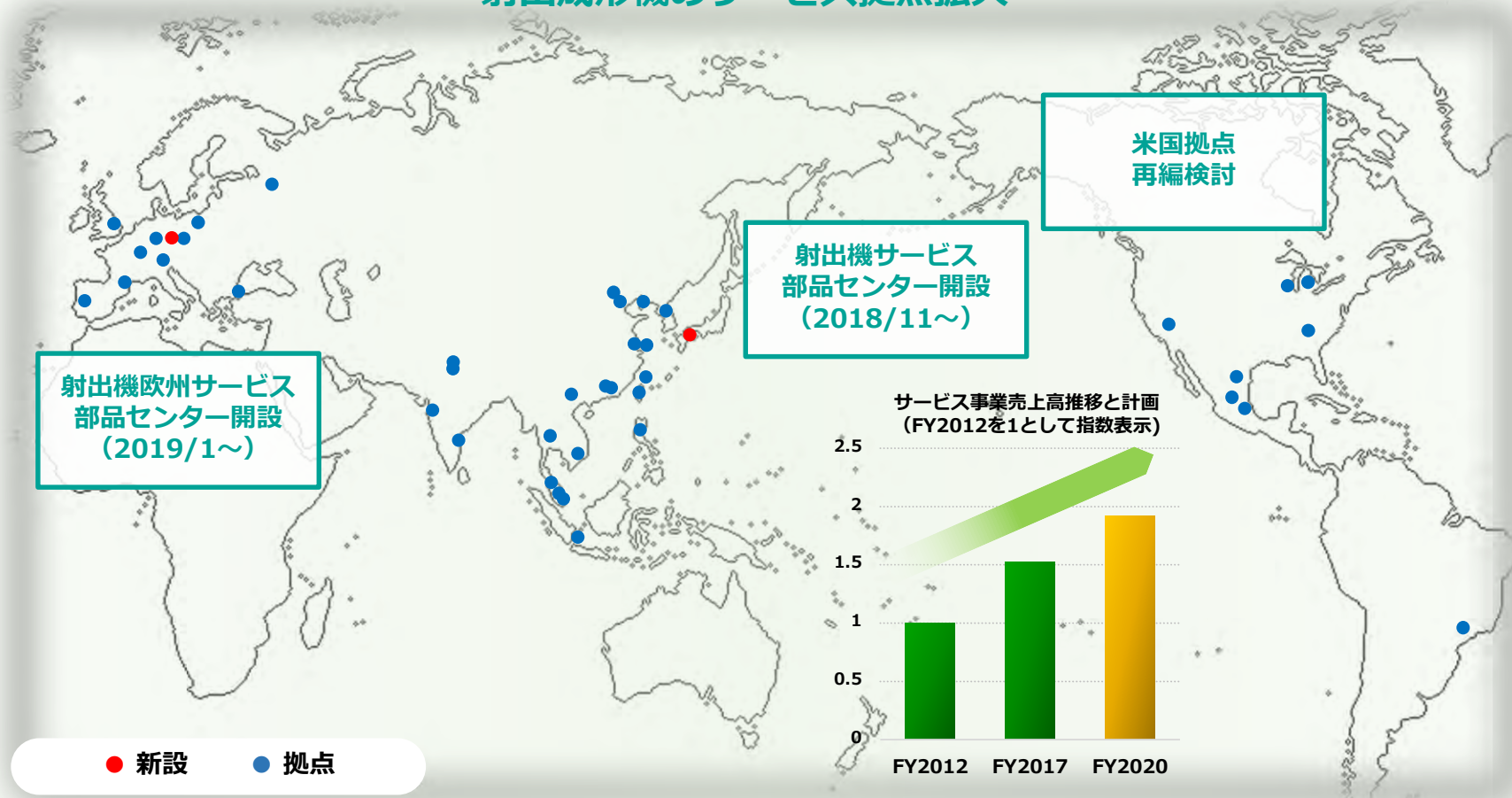
【Team Network】
成形機と周辺機器の連携
による省力化

J-Wise : JSW Worldwide IoT Solutions of Enhancement

各種産業機械製品に展開

- 産業機械事業を中心にサービス体制の基盤強化 ⇒ 安定収益の確保、顧客満足度向上
- サービス事業を通じた強固な顧客基盤の構築 ⇒ 次の事業への礎作り

射出成形機のサービス拠点拡大



メガトレンドを見据えた新事業探索 ⇒ 航空機、水素、結晶、成膜 4分野+ α の育成と事業化推進

▶ 機能材事業推進室の新設（2018年10月1日～）

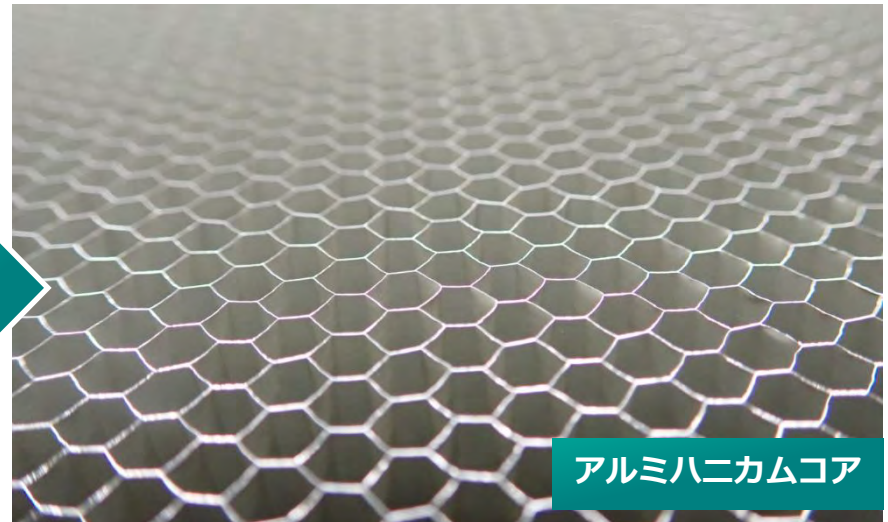
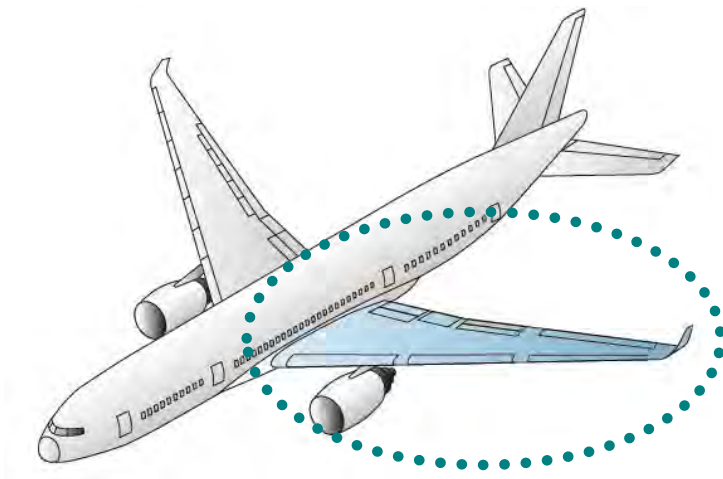
CFRP・粉末合金等の機能材、機能材製造機器、及びシステムの事業化を推進

▶ 航空機事業推進室

航空・宇宙・防衛関係品質マネジメントシステムの認証

「JIS Q 9100 2016年度版」を取得（取得日：2018年10月12日）

対象範囲：航空機用動翼のハニカムコア加工



アルミハニカムコア

▶ 水素関連事業推進室

○ 水素ステーション用※ 鋼製水素蓄圧器



水素ステーション



鋼製水素蓄圧器

▶ 当社製の特長：

- ・ 鋼製蓄圧器として最長寿命、安価
- ・ 2018年度国内シェア75%

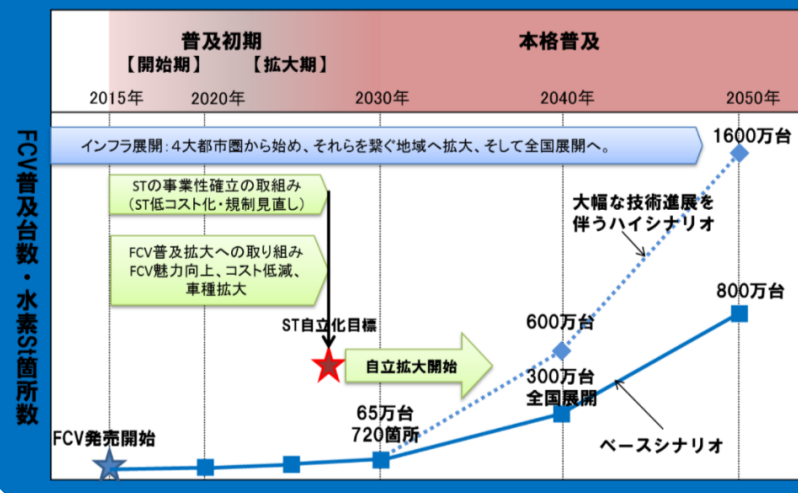


より安価で長寿命の
鋼製蓄圧器を開発中。
2018年度内販売開始。



開発中の蓄圧器

FCVと水素ステーションの普及に向けたシナリオ



出典：「FCVと水素ステーションの普及に向けたシナリオ」
燃料電池実用化推進協議会（2016年3月11日）

燃料電池車（FCV）の普及により事業拡大を期待

※水素ステーション：
燃料電池車（FCV）に水素を補給するための施設

トピックス

● プラスチックリサイクル – 過去の実績と将来への取り組み –

1995 2000 2005 2010 2015 2018 2025

リサイクル

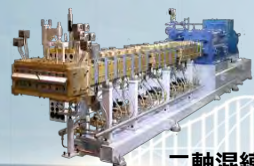
生分解性プラスチック

廃プラスチックの燃料化

PETボトルリサイクル

古紙再生

排出量削減



二軸混練押出機



射出成形機



フィルム・シート製造装置

微細発泡押出機、成形機
バイオプラスチック製造装置
薄膜フィルム製造装置



微細発泡射出成形機

未来への挑戦 ～低環境負荷に向けた製品開発～

- プラスチック代替化技術開発
- ナノ複合原料での製品特性向上技術開発



マグネシウム合金射出成形機



答えはいつも先にある。
後ろを振り返るよりも、
一步でも前に突き進む。

ものづくりの未来を変える。

JSW
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.
日本製鋼所



速く進むの要諦は走りこみ、
先を見据え進むこと。それは、
先手先手が勝つことだ。
「ものづくりの未来を変える。」

JSW
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.
日本製鋼所



「ものづくりの未来を変える。」

ゴールを越える速くは、
決して「ツラ」はない。
高いかたを越える人々の得意だ。
「ものづくりの未来を変える。」

JSW
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.
日本製鋼所



「ものづくりの未来を変える。」

高みを超えたいはず
思いどおしく高みへあきらめず、
挑戦するスピードを高く超えていく。
「ものづくりの未来を変える。」

JSW
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.
日本製鋼所



「ものづくりの未来を変える。」

「攻」めるだけでなく、
新しい事は誰かしない。
攻め続けることが、やがて時代を動かす。
「ものづくりの未来を変える。」

JSW
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.
日本製鋼所

A hand with a finger pointing towards a circular button. The button has the text 'FUTURE' above a horizontal line and 'START' below it. The background is dark and textured.

FUTURE
START

JSW 日本製鋼所



参考資料



産業機械事業

旧開示区分(～FY2017)	新開示区分(FY2018～)
樹脂製造・加工機械	樹脂製造・加工機械
成形機(連結)	成形機(連結)
その他	FPD装置(連結) ※
連結会社他	その他
	連結会社他

※FPD (Flat Panel Display) 装置(連結) :
レーザーアニール装置+レーザー応用製品+関連サービス

変更製品、関連会社等	旧開示区分⇒新開示区分
レーザーアニール装置 (応用製品含む)	その他⇒FPD装置(連結)
JSW IT サービス(株)	関連会社他⇒FPD装置(連結)
関連会社1社	連結会社他⇒その他事業

素形材・エネルギー事業

旧開示区分(～FY2017)	新開示区分(FY2018～)
電力・原子力	電力・原子力
石油精製用圧力容器	クラッド鋼板・鋼管
クラッド鋼板・鋼管	その他
風力発電機	連結会社他
その他	
連結会社他	

変更製品、関連会社等	旧開示区分⇒新開示区分
石油精製用圧力容器	石油精製用圧力容器⇒その他
風力発電機	風力発電機⇒その他事業
関連会社3社	連結会社他⇒その他事業

その他事業

旧開示区分(～FY2017)	新開示区分(FY2018～)
不動産その他事業	その他事業 (不動産は営業外へ)

売上高・営業利益・純利益の推移

※19.3期より新セグメントでの開示
18.3期以前はその他事業に不動産を含む



	13.3期	14.3期	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期 (予想)
売上高	2,206	1,887	1,946	2,233	2,124	2,129	2,270
産業機械事業	1,301	1,183	1,263	1,443	1,593	1,702	1,770
樹脂製造・加工機械	370	283	325	364	361	502	630
成形機(連結)	409	470	536	564	576	645	690
FPD装置(連結)	-	-	-	-	-	-	150
その他	377	318	250	326	468	370	190
連結会社	145	112	152	189	188	185	110
素形材・エネルギー事業	882	676	662	748	512	408	450
電力・原子力	374	226	274	192	193	172	140
石油精製用圧力容器	43	41	42	14	17	10	-
クラッド鋼板・鋼管	293	267	162	393	135	70	150
風力発電機	11	17	57	12	39	16	-
その他	123	72	70	69	53	55	100
連結会社	38	53	57	68	75	85	60
その他事業	22	27	20	40	18	17	50
営業利益	166	88	75	144	123	213	240
産業機械事業	167	121	113	124	151	238	242
素形材・エネ事業	△5	△36	△39	7	△28	△15	22
その他事業	8	11	9	20	9	8	2
純利益	82	55	△53	△166	△49	107	200

主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

※19.3期より新セグメントでの開示
18.3期以前はその他事業に不動産を含む



	13.3期	14.3期	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期 中間期
総資産	3,039	2,931	3,196	2,931	2,753	2,974	3,075
産業機械事業	968	993	1,084	1,243	1,237	1,281	-
素形材・エネルギー事業	1,202	1,115	1,114	602	375	403	-
その他事業	133	129	130	120	118	117	-
純資産	1,343	1,392	1,382	1,113	1,075	1,186	1,281
1株あたり純資産額(円) ※17.3期以降は株式併合後	359.29	372.83	368.81	299.41	1,446.44	1,592.47	1,726.15
自己資本比率(%)	43.83	47.09	42.72	37.53	38.6	39.3	41.3
自己資本利益率(%)	6.35	4.07	△3.88	△13.46	△4.6	9.6	-
営業活動による キャッシュフロー	237	115	115	197	120	267	73
投資活動による キャッシュフロー	△58	△57	△26	△121	△135	△50	24
財務活動による キャッシュフロー	△152	△150	△29	47	△12	△24	△18
現金及び現金同等物の 期末残高	509	422	491	614	586	778	858

日本製鋼所グループは、持続可能な社会の実現を目指す企業として、次の10原則に基づき、国の内外において、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

- 1.持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図るために、イノベーションを通じて、社会に有用で安全性に配慮した製品・技術・サービスを開発・提供する。
- 2.公正かつ自由な競争に基づく適正な取引、責任ある調達を行う。また、政治、行政とは健全な関係を維持する。
- 3.企業価値向上のため、適切な企業情報を積極的かつ公正に開示し、幅広いステークホルダーとの建設的な対話を行う。
- 4.全ての人々の人権を尊重する。
- 5.市場や顧客のニーズを製品・技術・サービスに反映した上で、顧客からの問い合わせ等に速やかに対応することにより、社会と顧客の満足と信頼を獲得する。
- 6.従業員の多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、良好な職場環境を確保する。
- 7.環境問題への取り込みは企業としての重要な責務であることを認識し、主体的に活動する。
- 8.企業市民として、社会に参画し、その発展に貢献する。
- 9.市民社会や企業活動に脅威を与える反社会的勢力やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に対して、組織的な危機管理を徹底する。
- 10.経営トップは、この行動基準の精神の実現が自らの役割であることを認識し、実効あるガバナンスを構築した上で、当社および関連会社に周知徹底を図り、あわせてサプライチェーンにも本行動基準の精神に基づく行動を促す。
また、本行動基準の精神に反し、社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たす。